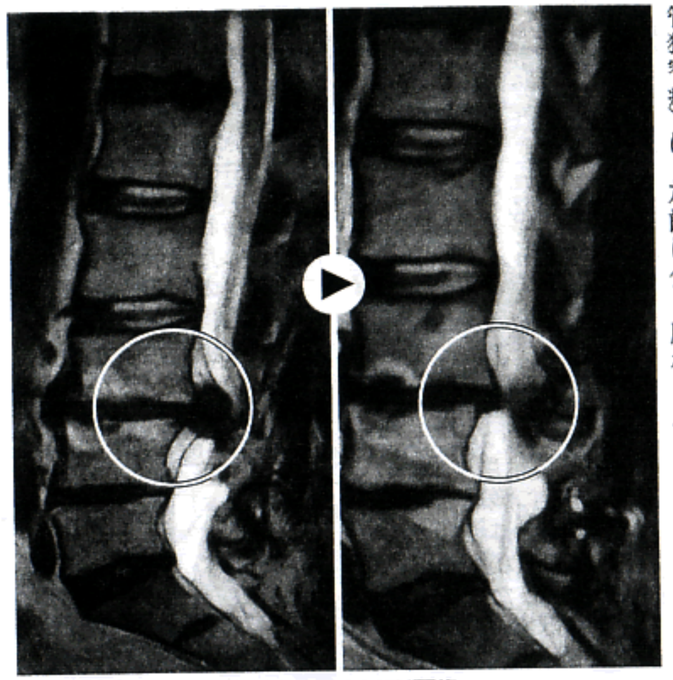
腰痛対策

頑固な脊柱管狭窄症でも胎盤エキス「プラセンタ」なら改善例が多く、歩行距離が延びたと評判

高齢の人でも安心して治療が受けられる＊＊＊

清水整形外科クリニック
院長
清水伸一

腰部脊柱管狭窄症（以下、脊柱管狭窄症）は、加齢に伴う腰椎（背骨の腰に当たる部分）の変形が原因で、脊柱管（中枢神経の束が通っている管）が狭くなり、神経が圧迫されるために起こる病気です。



●治療前（左）と治療後（右）の腰のMRI画像
プラセンタ注射を半年間続けた結果、脊柱管での神経の圧迫が弱まり、周辺組織の修復も確認された。患者さんの訴えていた痛みなどの症状にも顕著な改善が認められた。

腰に激しい痛みが起こるほか、足へと伸びる神経も圧迫されるため、足の痛みやしびれ、間欠性跛行（痛みのためにこま切れにしか歩けなくなる症状）も伴い、日常生活が大変不便になります。

脊柱管狭窄症は、腰痛を引き起こす病気の中でも、最も治しにくいものの一つとされています。

私のクリニックにも、脊柱管狭窄症による腰痛や足の痛みを訴える患者さんが多く訪れます。そうした患者さんに対し、私は次のような手順で治療を進めています。

まずは、レントゲンやMRI（磁気共鳴断層撮影）を用いて診察し、ほかの病医院と同じように、消炎鎮痛薬や湿布薬、コルセットの装着や温熱治療などを行います。それで効果がなければ、ブロック注射を行うこともあります。

このような従来の治療で治れば問題はないのですが、多くの場合、満足を得られないのが実情です。そうした場合、最終的には手術がすすめられますが、手術はできるだけ受けたくないという人が少なくありません。また、高齢や持病のために手術を受けられない人もいます。

そのような人にぜひ試してほしいのが、プラセンタ療法です。

手術を受ける前に試す価値がある＊＊＊

プラセンタとは、哺乳動物の胎盤を意味しますが、一般には、人間やブタの胎盤から抽出されたエキスのことを指します。

胎盤は、一個の受精卵を胎児に成長させる臓器であるため、胎児の成長に不可欠の栄養や生理活性物質（体の働きを活発にする物質）、酵素（体内の化学反応を助ける物質）などを豊富に含んでいます。

そのため、プラセンタには、血行促進作用、抗炎症作用、細胞活性化作用、基礎代謝向上作用、ホルモン調整作用など、二〇もの薬理作用のあることが確認されています。

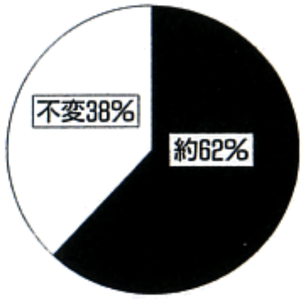
これらの作用が複合的に働いて、傷ついて働きの悪くなった神経細胞を再生したり、その周辺の組織を若返らせたりして、脊柱管狭窄症による痛みやしびれの改善につながるのだと思われます。

実際、私のクリニックには複数の病院で長期にわたって治療を受けても、頑固な腰痛や足の痛み、間欠性跛行が改善せずに困っている重症の患者さんが多く訪れます。また、手術を受けても思ったようによくならなかったり、数年後に痛みやしびれが再発したりする患者さんも少なくありません。

そうした重症の患者さんでも、プラセンタ療法を行うと、半年間で約六二％の人に顕著な改善が認められます。改善した患者さんの中には、足の痛みやしびれが取れた、間欠性跛行が回復して歩行距離が延びた、というケースが見られます。そのため当院では、手術の前にプラセンタ療法を試すことをおすすめしています。

プラセンタ療法の改善率と治療満足度

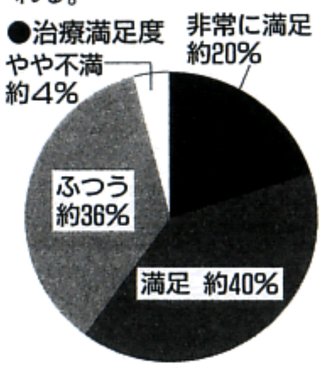
●改善率



脊柱管狭窄症の場合、重症の患者さんでもプラセンタ注射を行えば、半年間で約62%の人に改善が認められる。

そうした患者さんの中には、足の痛みやしびれが取れた、間欠性跛行が改善して歩行距離が延びた、というケースが見られる。

●治療満足度



治療満足度に関しては、「非常に満足」は約20%、「満足」は約40%で、約60%の人が満足以上の結果となった。

そのほか、「ふつう」は約36%で、「やや不満」が約４%。「不満」「非常に不満」と答えた人はいなかった。

腰痛や足の痛みの改善率は約六二％＊＊＊

私は、脊柱管狭窄症の治療を行うとき、①腰痛、②足の痛み、③足のしびれ、④歩行距離、⑤治療満足度の五項目で、患者さんの病状をチェックします。

そのうち、⑤の治療満足度を、「非常に満足」「満足」「ふつう」「やや不満」「不満」「非常に不満」に分け、患者さんに記録を取ってもらい、患者さんの病状の把握に役立てています（これまでの総数は八〇人）。

その結果、約二〇％の人が「非常に満足」、約四〇％の人が「満足」と答え、合計約六〇％の人が満足以上の結果となりました。そのほか、「ふつう」と答えた人は約三六％で、「やや不満」が約四％。「不満」「非常に不満」と答えた人は一人もいませんでした。

そして、病状チェックの①～④においては、改善した人が約六二％おり、悪くなった人はいませんでした。

つまり、患者さんの満足度においては、約六〇％でしたが、プラセンタ療法を受ければ、①～④の症状に関しては、約六二％の人で改善が見込めるということです。

プラセンタ療法では、一回につき二アンプルを注射します。治療回数は、痛みがある程度治まるまでの最初の一、二ヵ月間は、初期療法として一週間に一、二回注射を行います。その後は、維持療法として一、二週間に一回の割合で注射をするのがふつうです。

注射以外にも、最近はプラセンタの栄養補助食品を利用して、脊柱管狭窄症の症状が改善したという人が増えています。栄養補助食品にはドリンクや粒食品がありますが、プラセンタエキスを一日当たり五〇〇～一〇〇〇グラムを目安に毎日とるといいようです。